

市民のひろば

おかやま特集号 2021年9月号 Vol.38



未来を
切り拓く子どもを
育てるために、今

～第2期岡山市教育大綱を策定しました～

02 | 岡山市教育大綱座談会

今の時代をとらえた岡山市の教育とは

04 | 学校教育の変革に チャレンジ!

06 | 次なるステージへ! 第2期教育大綱

08 | 5つの力を育む授業 中学校編 高島中学校 ～ICTを活用した授業～

09 | ・ICT教育を支える教員をサポート! ・「OJT若手教員育成支援プロジェクト」 を実施!

10 | 5つの力を育む授業 小学校編 伊島小学校 ～地域のことを学び、考える総合的な学習の時間～

11 | ・学校と地域をつなげる公民館 ・学校で進める人権教育

12 | 読者アンケート&プレゼント

今の時代をとらえた 岡山市の 教育とは

「第1期教育大綱」を受け、 変わりはじめた授業づくり

大森市長 「第1期大綱」策定当時、本市は子どもたちの学力、問題行動等に大きな課題を抱えていました。特に中学校は国語・数学ともに偏差値48と全国平均より低く、無解答の割合も全国に比べ約2倍。子どもたちの考える基盤が弱いことに危機感を覚え、この4年間は「学力の向上」と「問題行動等の防止および解決」を柱に数値目標を掲げ取り組んできました。その甲斐あって学力の目標は達成でき、一定の成果を実感しているところです。「学校が変わった」という声が届いていますが、具体的に何がどう変わったのでしょうか。

菅野教育長 「第1期大綱」が策定された後、各校を視察しましたが、以前は教員が子どもたちの前で話をする講義形式の授業が多かったのに対し、最近は双方向で問題解決するような学習が充実してきた印象です。教職員・学校間の交流も

学校間で
互いの良い点を
吸収し合うように
なった

活発になり、互いの良い点を吸収し合うようになったと感じましたね。

山本校長 「第1期大綱」策定を受けて、各学校では、朝学習の工夫や家庭学習の充実などさまざまな取り組みを重ねてきましたが、特に注力したのは授業改善です。以前は各先生の個々の工夫に依存する面が大きかったのですが、全国学力・学習状況調査や岡山市独自の学力・学習状況調査

岡山市教育長
菅野和良

教育大綱
とは？

市長が教育委員会と協議をして策定した、教育の振興に関する施策の目標や方針のこと

詳しくはこちら



<https://www.city.okayama.jp/shisei/0000015191.html>

の結果を分析し、それをもとに授業改善を図る方向で足並みが揃ってきました。学習指導要

「学校が変わった」という声が届いている

領の改訂もあり、「主体的・対話的で深い学び」に向け加速的に取り組みが進んだと感じています。ペアやグループ学習の機会を増やしたことで、子どもたちが活発に意見を交換し合う姿も目立ちはじめています。また、教職員も積極的に互いの授業を参観し合うようになり、問題行動等にも教職員一丸で対応しようという前向きな空気が広がっています。

岡山市長
大森雅夫

三木校長 私は「第1期大綱」策定前後の3年間、市外で勤務していましたので、岡山市に戻った際、先生方の意識が大きく変わっていることに非常に驚きました。中学校は生徒指導の重要度が高く、部活動指導もありました。しかし「第1期大綱」策定を受け教育委員会から具体的に改善点が示されたことで、授業改善の重要性に対する認識が深まっていったように思います。また、同時期に校内にエアコンや大画面テレビが設置され、「岡山市は、方向性を示すだけでなく環境もしっかり整えていくんだ」という思いをもつことができ、教職員をはじめ子どもや保護者の皆さんも心強く感じているようです。

予測困難な時代に生きる子どもたちが、未来を切り拓く力を

大森市長 現代は、教育をする側、教育を受ける側どち

らにとっても先行き不透明な難しい時代。だからこそ我々は教育の在り方について幾度も議論し、「第2期大綱」では「個性を磨き、選択と挑戦を繰り返す」力を身に付けることが重要であると結論付けたわけです。ただ、一方的に目標を示すだけでは不十分と考え、定量的な指標を盛り込むよう願いました。

菅野教育長 市長のおっしゃる通り、現代はより多くの知識を蓄えれば未来が拓けるというような単純な時代ではなく、この世の中の変化に応じた教育を行わなければなりません。ICTも効果的に活用しながら、「自ら課題を見つけ解決する」探究的な学習を、各校で充実させていきたいと考えています。

山本校長 探究的な学習の一つとして、本校では、総合的な学習の時間に、防災をテーマにESDの視点を大切にしながら学習に取り組んでいます。避難経路や避難生活における課題についてインターネットや本、あるいは実際に現地に赴いて情報収集し、子どもたちが自分

次の挑戦・
成長へ
導きたい

なりの考えをまとめています。昨年度末に1人に1台のパソコンが整備されましたので、今後はそれを新たなツールとして子どもたちがどんどん活用してくれるだろうと考えています。

三木校長 「第2期大綱」では育むべき5つの力として「活用力・表現力・向上心・社会性・人権尊重の精神」の5つが示されました。これらをバランスよく身に付けるには、失敗や挫折から学ぶ経験も大切です。教職員の

使命は、それらを次の挑戦・成長へ導き、未来を切り拓く人間的たくましさを育むこと。原点に立ち返り、一人一人の思いに寄り添った授業づくり、進路指導に臨まなければ、思いを新たにしているところです。

学校種を越えてつながり、 オール岡山市で取り組みを

大森市長 「第1期大綱」策定の過程では、「教育は一体誰が責任をもつものなのか」という議論も随分しました。保護者や地域が担う責任も当然ありますが、先生

の存在が与える影響は相当に大きい。そのため大綱では第1期、第2期を通じて「先生にお願いすべきこと」に重点を置いて示したわけですが、今回皆さんが同じ方向に向かっていていると分かり安心しました。しかし、言うは易く行うは難し。「選択と挑戦」のメインベクトルを共有しつつ、各校長にはしっかりとリーダーシップを発揮し、より実践的に取り組んでいただければと期待しています。

菅野教育長 先行き不透明な今日においては、先生方の「子どもたちと一緒に答えを探す」姿勢、また子ども自身が考える力を備えることが重要。「第2期大綱」の取り組みにおいても、各校にはぜひそのベースとなる読解力をしっかり育てていただきたいと思います。

山本校長 大綱策定後の変化を見ても、やはり我々教職員の意識のもち方は非常に重要であると実感しています。既存の学習プロ

セスにも大綱に沿うものは数多くありますから、それらをどう系統的に発展させていくか、発達段階、さらに中学校への学びの接続も意識しながらしっかりと授業改善に取り組みたいと考えています。

教職員の
意識の
もち方が
重要

三木校長 子どもたちは誰しも素晴らしい発想力・思考力を備えているものですが、自信のなさやブレーキになっているケースも少なくありません。無解答率ゼロを実現するためにも、我々大人はまずは子どもが表現することを尊重する姿勢をもたなければなりません。園や小学校での経験も大きく関わることで、学校種を越えた縦の連携も深めていければと思っています。

大森市長 園や、小・中学校のつながり同様、各学校と教育委員会の関係も非常に重要。市も、環境整備などを通じ全力で支援したいと考えています。郷土の先人・犬養木堂の書「樹人」、すなわち「教育は国家百年の大計」の精神をもって、「オール岡山市」で取り組んでいきましょう。



※撮影のために一部マスクを外していますが、座談会は新型コロナウイルス感染症予防に十分配慮した上でマスクをして行いました。

岡山市中学校長会会長
[中山中学校 校長]
三木満徳

岡山市小学校長会会長
[津島小学校 校長]
山本和明

学校教育の変革に

平成29年2月

第1期大綱策定前

前 子どもの実情は…

- ✓ 学力が全国平均を下回る

特に
中学生は

全国学力・学習状況調査の偏差値

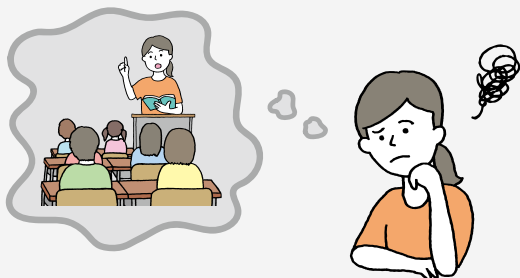
平成 28 年度	Before	小学生	中学生
	国語	50	48
	算数・数学	50	48

- ✓ 考える力が育っていない

学校では…



- 教職員は、一生懸命取り組んでいるが、個々の教職員の力量に委ねられる部分が多かった
- 子どもを取り巻く環境の変化や若手教職員の増加により、授業や子どもとの関わり方に一人で悩む教職員が増えた



- 子どもの力をどのレベルまで伸ばす必要があるか、という意識は高くなかった

第1期教育大綱を策定

市長が教育委員会と協議し、子どもの力を付けるために次のことが必要だと考え、大綱を策定しました

- ✓ 具体的な目標を明確にする
- ✓ 教育委員会と学校が一体となって取り組む

柱となる2つの
重点目標を設定

重点目標

「学力の向上」 &
「問題行動等の
防止および解決」

学力向上の数値目標

全国学力・学習状況調査の偏差値

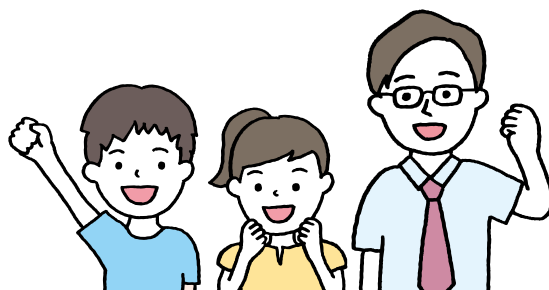
令和2年度
までに

小学校	中学校
51	50



具体的な数値目標を
設定

チャレンジ!



第1期大綱策定を受けた取り組み

教育委員会と学校の意識が変わった!

- 変化/ 1 教育委員会と学校が同じ方向性をもって具体的に取り組みを進めた
- 変化/ 2 教職員が一人で抱え込むことなく学校全体で取り組むようになった

教育委員会と学校の連携を強化

各学校の課題をもとに協議する機会や校長会との情報交換が増えた



校長が教員にアドバイス

校長が週2回以上授業を参観。教員が、自分の授業について積極的に校長に指導・助言を求めるようになった



教員同士が子どもの様子や授業を語る場も

小・中学校の垣根を越えた協議が進むとともに、授業を良くするための教員同士の会話が日常的に



先生の声

大綱ができてから、教科の壁はもちろん、幼稚園や小学校などの学校種を越えての研修や交流が盛んになり、活発な意見が交わされています。教育委員会も気さくに学校に出向ってくれ、相談の数居が低くなりました。私も教員の授業をほぼ毎日見て回るので、私の助言をすぐ授業に取り入れてくれ、また日々会話を交わすことで教員からアイデアを提案してくれる機

会も増えた気がします。それも成果の一つと言えるのではないのでしょうか。また、大綱で数値目標が示されたことで、教員と面談するときも具体的に課題や到達度を意識して話し合うようになりました。



福浜中学校
藤枝茂雄校長

取り組みの成果

後 子どもの変化は…

- ✓ 学力が全国平均レベルになった

全国学力・学習状況調査の偏差値

令和元年度	After	小学生	中学生
	国語	51	50
	算数・数学	50	50

- ✓ 基礎的な知識を身に付け、「考えることができる子ども」が育ってきた
- ✓ 学習に対する意欲が高まるとともに、課題に粘り強く向き合うようになった